

朔東にも、やっと本格的な冬将軍が訪れてきたようだ。
今夏の冷夏に引き続き、今年の冬も異状気象(?)である。その状況をデータで確認すべく調べて貰った。霜、結氷、雪に関するデータの何れもが、平年値とそれ程の差異はない。本日(12月6日)は当地も本格的な雪となった。寒い日が続きそうなので、この積雪が根雪になるのかもしれない。

冬季気象に関するデータを紹介する。陸上自衛隊の大きな駐屯地が所在する帯広、釧路及び網走の三測定地点のデータを全て紹介するのはやや煩であるので、帯広で代表させる。

- 霜(初霜:秋から冬にかけて最初に降りる霜)
初日(平年値:10/8、最早:9/14、最遅:10/30)
終日(平年値:5/16、最早:4/23、最遅:6/27)
因みに今年平成15年は、10月4日である。
- 結氷(屋外のたまり水が凍る現象)
初日(平年値:10/12、最早:9/23、最遅:10/30)
終日(平年値:5/6、最早:4/16、最遅:5/29)
因みに今年平成15年は、10月7日である。
- 雪
初日(平年値:11/5、最早:10/11、最遅:11/22)
終日(平年値:4/27、最早:3/29、最遅:5/26)
因みに今年平成15年は、11月16日である。
- 積雪(地面の半分以上が雪や霰で覆われている状態)
初日(平年値:11/19、最早:10/24、最遅:12/11)
終日(平年値:4/21、最早:3/26、最遅:5/26)
- 根雪(積雪が30日以上継続し、途中5日程度雪解けしてもその後根雪となれば、継続しているものとする。又、根雪の終日は、雪が溶けてもそのまま30日間計測してその後発表する。)
初日(平年値:12/13、最早:11/14、最遅:1/19)
終日(平年値:3/19、最早:1/12、最遅:4/17)

初雪も遅く、未だに積雪が観測されていない状況であり、根雪の初日が年を越す事もあり得るのだろうか。昭和23年の時のように。

雪が遅いという事は小生等にとっては誠に結構なことではあるが、スキー場関係者は大いに気を揉んでおられることであろう。本日、現在、道内スキー場でオープンしているのは、唯一つである。勿論、朔東管内にある21個(十勝:6、釧路:7、網走:7、根室:2)のスキー場のオープン日すら決まっていない。あるスキー場ではオープンに向けて人工降雪機をフル運用したが、その甲斐もなく先週の雨が無残にも雪を融かしオープンの機会を奪

ってしまった。今週末も雨だとすれば、当分ゲレンデで格好良く滑る事は敵わぬだろう。神頼みの状態である。今日の雪で何とかオープンに漕ぎつける事が出来るのだろうか。

農家にとっても降雪の遅い事が望ましい訳ではないようだ。雪が遅いとどのような影響があるのか、① 地表面の霜柱によって、小麦や芝生の根が切れる。② 土壌凍結により、春堀の長いものが凍結し、品質低下を招く。③ 土壌凍結が深くなると春作の作業が遅れる。等が考えられる。

第五特科連隊が連隊として支援する最後の帯広氷祭りにも悪い影響が出るのではないか、杞人の憂いに止まれば幸いである。

(参考：理科年表等、市役所の営農課 etc)